

やんばる世界遺産だより

第5号

平成30年3月発行

沖縄島北部部会

事務局

世界遺産登録を見据えた地域の取組を進めています！

やんばる地域（沖縄島北部）を含む「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産候補地」の世界自然遺産登録の可否を決定する審査は、今年6月24日～7月4日にバーレーンにおいて開催される予定の世界遺産委員会で行われます。

世界自然遺産登録を見据え、登録後にやんばる地域の自然がきちんと守られていくよう適切な管理を実施するため、やんばる地域では様々な議論が行われています。

今号では、3月5日に開催された平成29年度第2回沖縄島北部部会で話し合われた地域の取組を紹介します。



平成29年度第2回沖縄島北部部会の様子

世界遺産登録に対する住民意識について共有・西表島と比較

沖縄島北部部会では、まず、世界遺産登録への地域住民の意識を調査したやんばる地域の住民アンケートの結果について共有しました（本誌前号にて速報・今号次頁で詳細結果掲載）。また、その結果について、やんばる地域と一緒に世界遺産に推薦されている西表島の住民意識と比較しました。

やんばる地域のアンケートでは、50代以上の回答が多いこと、回収率が約9.9%と低めであったことが特徴です（西表島：回収率約20%）。やんばる地域では世界遺産に関心が薄い層が多い可能性があり、普及啓発活動を積極的に進める必要があるとの意見が出ました。また、回収率が低いことに留意する必要はあるものの、世界遺産登録について好意的に捉える回答が、やんばる地域では約63%、西表島では約28%となり、やんばる地域には世界遺産登録に望ましいと考える方が多い傾向がみられました。

やんばる地域	観点	西表島
50代以上が80%程度 職業：無職、農業、主婦の順に多い	回答者の属性	30代～60代が各20%程度 職業：観光ガイド、宿泊業の順に多い
約9.9%	回収率	約20.0%
 全く望ましくない 4% 無回答等 3% 望ましくない 5% どちらとも言えない 25% 望ましい 32% 大変望ましい 31%	遺産登録への意識	 無回答等 4% 大変望ましい 13% 全く望ましくない 20% 望ましくない 21% どちらとも言えない 27% 望ましい 15%
1. 人口減少・少子高齢化 2. 経済活動の低迷 3. ノイヌ・ノネコの多さ	地域の課題 (トップ3)	1. 海の自然環境の劣化 2. 山や川の自然環境の劣化 3. ゴミの散乱
・貴重な自然や動植物が守られる ・美しい自然が守られる →各々 60%以上 の方が期待	世界遺産登録により 期待できること	・貴重な自然や動植物が守られる ・美しい自然が守られる →各々 20%程度 の方が期待
・観光関連の収益が増える → 約53% の方が期待 ・地域経済の活性化と雇用増 → 約33% の方が期待		・観光関連の収益が増える → 70%程度 の方が期待 ・地域経済の活性化と雇用増 → 40%程度 の方が期待

世界自然遺産登録に関する住民アンケートの調査結果報告（詳細）

平成 29 年 9 月～10 月にかけて、やんばる地域（沖縄島北部）に住んでいる人を対象に、世界自然遺産への登録に対する意識調査を実施しました。

やんばる 3 村の各字に協力頂き質問票を配布し、配布件数 4,673 件（戸配布）のうち、462 件（回収率：約 9.9%）のご回答をいただきました。

アンケートにお答えいただいた方の年齢は、60 代の方が多く、50 歳以上の方で約 8 割の回答を占めていました。また、職業は、無職の方が約 22.1%、農業の方が約 20.8% を占めました。

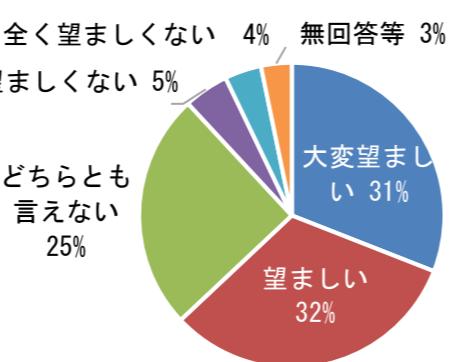
（詳細は右表）

世界自然遺産に関する認知度・意識

世界自然遺産への推薦については、既に多くの方がご存知で、約 63% の方が世界遺産への登録を好意的に捉えていたことが分かりました。一方、世界遺産登録について、「どちらとも言えない」と答えた方が約 25% を占めていました。

（認知事項）	知っていた	知らなかった	無回答等
やんばるが世界自然遺産に推薦された	94.4%	3.2%	2.4%
奄美大島、徳之島、西表島と一緒に世界遺産に推薦された	76.4%	21.4%	2.2%
やんばるの自然に世界的に貴重な価値がある	89.6%	8.2%	2.2%

やんばる地域が世界遺産になることについてどう思うか

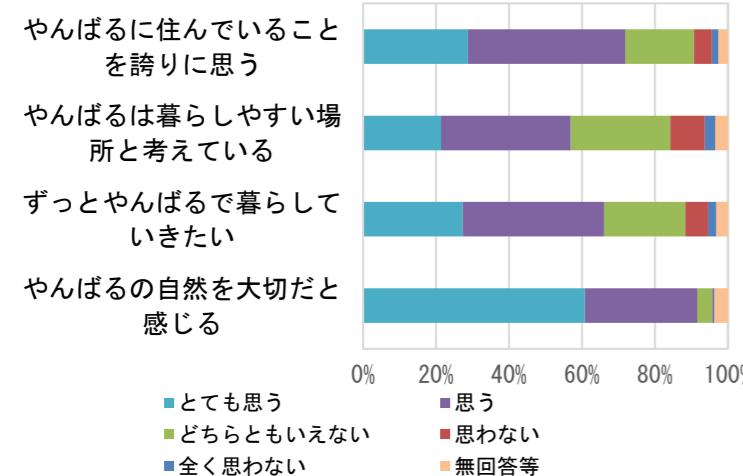


やんばるにおける暮らしや自然についての意識、重要課題についての認識

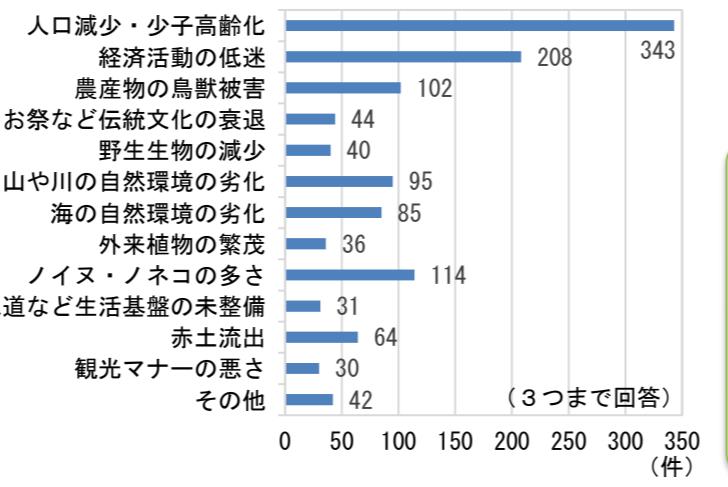
やんばるでの暮らしに関する意識では、7 割以上の方がやんばるに住んでいることを誇りに思っていることが分かりました。また、やんばるの自然を大切であると、9 割以上の方が感じていました。

やんばるの抱える課題として、人口減少・少子高齢化、経済活動の低迷が重要課題とする意見が多く、続いて、ノイズ・ノネコの多さが続きました。「その他」の回答には、基地問題を挙げる意見が多く見られました。

やんばるにおける暮らしや自然についての意識



やんばるの抱える課題のうち、重要な課題は何か



地域活動や保全活動、講演会等への参加状況

この 1 年間での地域の活動や自然を守るための活動などへの参加状況として、ゴミ拾いなど地域の美化活動へ参加された方が多い傾向が見られました。自然等の観察会への参加は約 19.9%、世界遺産登録に関する講演会や沖縄島北部部会には約 18.8% の方が参加していました。林道のパトロール等や外来種駆除に参加した方はそれぞれ 9.7%、6.5% であり、積極的な保全活動に参加している人も一定数いました。

活動内容	回答数	比率(%)
ゴミ拾いなど地域の美化活動	291	63.0
自然や生きものの観察会	92	19.9
林道のパトロールや巡視	45	9.7
外来植物の抜き取り作業など 外来種駆除	30	6.5
世界遺産登録に関する講演会や 沖縄島北部部会	87	18.8

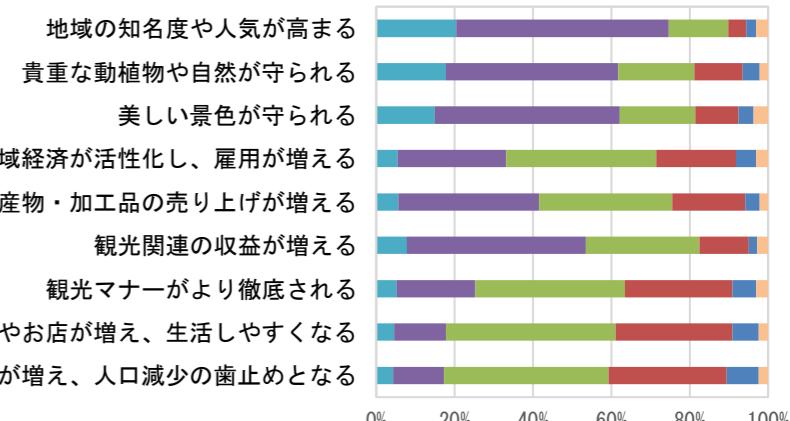
※比率は母数をアンケート回収数（462）として便宜的に算出したもの。この母数には無回答者が含まれるため、実際の比率はより高くなる。

やんばる地域が世界自然遺産に登録された場合に期待できること

世界遺産登録に期待できることとして、約 74.7% が地域の知名度や人気が高まると考えていることが分かりました。貴重な自然や動植物が守られること、美しい景色が守られると期待できると回答した方が 6 割を超え、自然環境保全への期待がある程度あると考えられます。

一方、地域経済活性化や、移住者増加・人口減少の歯止めになると思う方は、それぞれ約 33.1%、約 17.3% と、世界遺産登録が地域の重要課題の改善につながるとは認識されていませんでした。

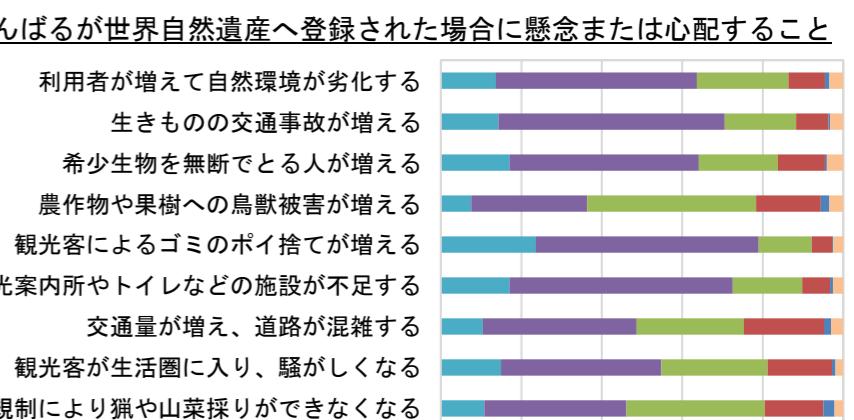
やんばるが世界自然遺産へ登録された場合に期待できること



やんばる地域が世界自然遺産に登録された場合に懸念または心配すること

世界遺産登録された場合に懸念または心配することとして、自然環境の劣化や生きものの交通事故が増えること、希少生物の違法採取が増えると思う方は、それぞれ 6 割を超える結果となりました。

また、観光客によるポイ捨てが増えることを心配する意見が約 79%、観光客が生活圏に入ることを心配する意見が約 54.8% あり、観光客のマナーを懸念する方も多いことが分かりました。



まとめ：やんばる地域の世界自然遺産への登録に対する意識調査の結果、約 63% の方が世界遺産登録を好意的に捉えていることが分かりました。やんばる地域の特に重要な課題は、人口減少・少子高齢化と経済活動の低迷であるものの、世界自然遺産への登録はこの地域の課題解決につながると認識している人は少ない状況であることも明らかになりました。また、大多数の地域の方がやんばるの自然を大切であると感じておらず、6 割以上の方が世界遺産登録により自然や生きもの、景色が守られることを期待する一方、自然環境劣化や生きものの交通事故、違法採取が増加することを懸念していました。世界遺産登録に向けた取組を自然環境の保全や地域の活性化につなげ、地域の課題を解決する糸口にしていくことが重要です。

やんばるの森の持続可能な観光利用に関する取組

世界自然遺産登録を見据え、世界遺産としての価値を保全するとともに、地域が正当な恩恵を得られるようするため、「やんばる型森林ツーリズム」を推進するための取組が進められています。

この取組では、やんばる3村の役場やツーリズム事業者、林業関係者などが参加した会議をこれまで70回以上開催し、検討を進めました。その結果、右図のような理念と基本方針のもと、下図のようにガイドの登録・認定制度の確立とフィールドの利用登録制度を設けることで、持続可能な観光利用を進める予定です。

ガイドの登録・認定制度

- 登録、認定の2種類のガイド
- 全体構想を理解し、実践するガイドを登録
- さらに、地域に根差した経験あるガイドを認定

フィールドの利用登録制度

- 利用できるのは登録、限定、オープンフィールドの3種類
- フィールド別ルールの遵守を条件に利用登録

やんばるにおける森林ツーリズムの理念

- やんばる地域固有の資源を観光を通じて持続可能な形で利用する。
- 多様な関係者との協働により、地域との共生を図りつつ、地域全体の振興に貢献する。
- 資源の価値を地域内外で共有し、次世代へ継承する。

理念を実現する基本方針

- 森林ツーリズムの基本コンセプト
=様々な森の恵みを体験を通して、感じて、学ぶ
- 森林ツーリズムの保全原則
=自然環境、地域社会、安全性の3つの持続可能性を確保

⇒新制度の創設・組織体制の構築

他地域でも持続可能な観光に向けた取組が進んでいます

西表島では、今年度から適正利用とエコツーリズムを推進するための取組が始まりました。地域のガイド事業者や有識者が集まり、フィールド利用のルール設定、ガイドの登録制度などについて議論され、検討が進められています。西表島では、自然を利用したガイドツアーが既に盛んに行われているため、世界遺産登録後に利用者が増え自然環境が劣化することが心配されています。そのため、適切なルールや制度を確立することにより適正な利用とすることが目指されています。



実証実験の様子（金作原）

奄美大島と徳之島を含む奄美群島では、既にガイドの認定制度がはじまっており、さらなる取組が進められています。今後、利用者が増える可能性がある奄美大島の「金作原（きんさくばる）」において、2月16日～22日に適正利用を進めるための実証実験が行われました。実証実験では、金作原の利用者に対して、認定ガイドの利用をお願いしました。

このように、やんばる地域と一緒に世界自然遺産に推薦されている他の地域でも持続可能な観光利用を推進する取組が進められています。



検討会における現地視察の様子（浦内川）

お問い合わせ先

沖縄県自然保護課 TEL:098-866-2243
大宜味村企画観光課 TEL:0980-44-3007

国頭村世界自然遺産対策室 TEL:0980-41-2101
東村企画観光課 TEL:0980-43-2265